



★つどい・しいあい・つながろう★

第13回 市民活動センターまつり



3月4日、お天気に恵まれ、まつり日和となった第13回センターまつり。来場者は約850名、子ども達もたくさん来てくれました。遊びコーナーの充実や、団体との連携をさらに図れる工夫など反省点をふまえて、実行委員会でも検討していきます。次回もさらに盛り上がるまつりとなりますよう、みなさまのご協力をお願いします。



活動紹介ブースにぎわいました



ステージ発表の和太鼓、六区座、フィリピンダンス



「いち・に・さん」の古角さん、上原さんによる司会進行



大盛り上がりの抽選会

初出店のイカ焼き完売



記事協力 NPO法人佐伯山里くらぶ 八木 康

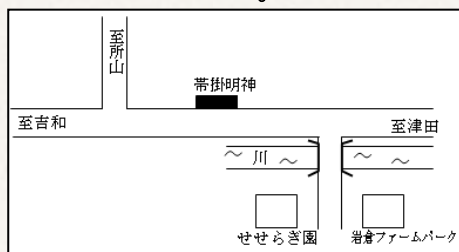


帯掛神社と重なり岩

吉和線所山別れの岩倉橋から東へ500m引き返すと、松や檜に囲まれた小さな祠がある。これを岩倉明神、または、帯掛明神と言う。その祠の上に縦、横、高さとも2mあまりの花崗岩が二つ重なりあっている。しかも上下の岩が接するのは、わずか1m位で、横から見ると今にも落ちそうな感じである。(重なり岩)

その昔、出雲の国から乳飲み子を背負い、はるばる厳島まで旅をして永住された市岐島姫命(いちきしまひめのみこと)が岩倉のこの岩のところで休息され、背負っておられた帯を、この岩に掛けたと伝えられ、以来この岩を「帯掛岩」というようになった。そして市岐島姫命を祀って帯掛明神としたのがこの祠である。

昭和初年ごろまで厳島の管弦祭に合わせて祭りが行われていて、その折り、人々は麦の初穂を各戸から集めて供えていたという。



帯掛明神

佐伯・今昔物語

ネットワーク団体からの

お知らせコーナー

掲載希望の方はセンター受付まで！
次回44号は6月末発行予定です。

JR 廿日市駅南口にボランティアの拠点を！

「サポート1番館 オープン！」

日時：4月7日(土) 13:00～17:00 場所：廿日市市駅前1番3号(廿日市駅南口そば)

13:00～ 開 会 館内案内

13:20～ 第1部 講演「最短の街づくりは壊す事」 ～(株)おはつ代表 秋田 光晶～

14:30～ 第2部 「サポート1番館の夢」 ～ええじゃん代表 栗林 克行～

15:40～ 第3部 ワークショップ&交流会(グループ別に話し合う「何をしたい?」)

※「ええじゃん」は在住外国人や障がい者と向き合い助け合うため、法律・福祉の専門家とボランティアの協働の場として「サポート1番館」を建設しました。1階の市民掲示板と3階のオープンスペースの利用等についてお問い合わせください。
問合せ：090-6436-0200【代表：栗林】

****お問い合わせ先**** 廿日市市市民活動センター
廿日市市住吉 2-2-16 ☎0829-32-3741 fax0829-32-3742
HPアドレス <http://www.hatnet.jp/>
 <https://www.facebook.com/shiminkatsudo.hatsukaichi>

****ネットワーク現在の状況****

(平成30年3月末現在)

登録団体 **162** 団体

— 市民活動情報紙 —

さくら de ファミリー

廿日市市市民活動センター
平成30年春号
Vol. 43

登録団体代表者研修会の報告

2月3日、登録団体代表者研修会を行いました。小田センター長から市民活動センターの概要説明後、広島大学大学院教授(教育学研究科)出口 達也氏による「柔道の指導を通じた社会貢献活動」という演題に沿って、柔道の奥深さを語っていただきました。「心・技・体」の鍛錬で強健にし、人格形成をはかり、また日本固有の伝統文化を継承している柔道の目的が世界各国で理解され、大きな社会貢献を果たしていることが分かりました。

約80名(67団体)の参加があり、市民活動やセンターについてより深い理解が得られた研修会となりました。

研修会は毎年年度末に行いますので、ぜひご参加ください。



熱心に講義を聞かれる参加者

提案型連携事業の募集について

★連携事業実施の目的

市民活動センターに集う市民活動団体同士が連携し、事業や活動を通して、お互いに支え合うことで他の団体に興味を持ち、理解することによりそれぞれの得意分野を活かした、よりよい活動が展開されることを目的として実施します。

募集期間：平成30年4月3日(火)～5月31日(木)

応募方法：事業提案書を作成し、市民活動センター受付に提出(提案書は受付にあります)

審査・選考：平成30年6月14日(木)19時～ 運営協議会にてプレゼンテーション
場所/市民活動センター 1階会議室

★その他詳しい内容につきましては、配布した応募の手引き、またはホームページをご覧ください。お問い合わせは、センター受付まで

提案型連携事業の報告

●花見山開拓隊

開催：月1回

場所：廿日市市宮内工業団地そばの山

主催：青少年夢プラン実行委員会

連携：阿品の森サポータークラブ

参加者数：延べ130名

阿品の森サポータークラブからチェーンソーの使い方、山整備に必要なトイレの作り方を教えてもらいました。山作りのプロの目線からみた「花見山」の改善点も見えてきました。



チェーンソーの勉強会



木を切って、道を広げて、広場を作ろう！

移動棚・メールBOX利用団体の募集

移動棚1団体分、メールBOX11団体分の空きが出来ましたので、利用団体を募集します。

募集条件：現在借りていない登録団体

利用期間：平成30年5月1日(火)～平成31年3月31日(日)(毎年度更新可)

使用料：移動棚・メールBOX共1ヶ月100円(支払いは年度分一括払い)

申込期間：3月27日(火)～4月10日(火)まで

◆申込方法：応募用紙に記入して1階受付に提出してください。

◆申込多数の場合は抽選により決定し、1階ロビーに掲示します。

市民活動に関して何かお困りごとはありませんか???

市民活動団体や市民の皆さんのニーズに合わせ、さまざまな相談ごとを皆さんと一緒にじっくり考えることができるよう、相談窓口を設置しています。「新しい事業を企画したい」「NPO法人になるにはどうしたらいいの?」などなど、お気軽にご相談ください!

■ 4月の相談日は12日(木)、26日(木)です。

時間：13時から16時まで

場所：市民活動センター1階交流スペース

アドバイザー：ひろしまNPOセンター 山本 祐二さん

※ 事前の予約が必要です

お申し込み・お問合せは、
センター1階協働推進課
(32-3810)まで!

平成30年度
登録更新書類の提出は、
お早めに!



スキルアップセミナーを開催しました！

特定非営利活動法人CANPANセンター代表理事の山田 泰久さんを講師にお招きし、インターネットを活用した情報発信セミナーと助成金活用セミナーを開催しました。2つのセミナーの内容をまとめて報告しますので、日ごろの活動に活かしていただければと思います！



NPO 法人 CANPAN センター
代表理事 山田 泰久さん

12月9日（土） インターネットを活用した情報発信セミナー

講師のお話「あらためて情報発信を考える ～NPO の情報発信～」

なぜNPOは情報発信するのか

市民活動団体・NPOやその活動は、外から見てわからない存在です。全国にNPO法人は5万1千あり、コンビニの数と同じくらい存在していますが、コンビニほど住民にとって身近ではありません。活動の現場に来てもらうのは難しいので、自ら可視化しなければいけません。また、可視化するだけでなく価値化が重要です。例えば、「何人の参加者がいた」は可視化ですが、「参加した人が〇〇〇と言っていた、△△△になった」は価値化です。このように、いろんな視点で書くことができます。これをしなければNPOの活動は伝わりません。良い団体とは、良い活動と良い情報発信をしている団体です。

web 情報発信の基本ツール

ネットで情報発信するなら、ホームページやブログなどはぜひ押さえておきたいツールです。特にブログはネット上の会報誌として情報を蓄積できるので、ぜひ活用しましょう。余裕があれば、Facebook や Twitter など使って、リアルタイムで手軽に情報発信を試みましょう。また、今は「半々時代」。半分は紙、半分はインターネット。あと5年くらいは紙もインターネットもそれぞれ大事で、情報を届けたい人に応じてツールを使い分けなければいけない時代です。紙のチラシには、インターネットへの入口である「QRコード」をのせましょう。

スマホ対応の重要性

普段の調べ物を、パソコンで検索する方もいれば、スマホで検索する方もいるでしょう。若者はスマホで検索することが多く、平成26年の調査では、60代のスマホの保有率は47.7%となっていて、60代でも約半分の方がスマホを持っている時代です。5年前に、スマホを使っていた方はどれくらいいますか？その時、これほどまでスマホが普及すると思いましたか？あなたの団体のホームページは、スマホに対応していますか？

「4割減」と「小学4年生」を意識

伝えたいことはできるだけ少ない文章で書きましょう。感覚としては文字量を4割削減するくらいが良いでしょう。文字の多い複雑な文章だと理解しようとしにくい人が多い。また、これは新聞記者の方に教えてもらったことですが、小学4年生でも理解できる文章で書くのがよいそうです。4割減と小学4年生を意識しましょう。

12/9 当日の様子とアンケート結果



コーヒー、お茶を飲みながら、簡単なミニワークやグループでの共有を交えて学ぶことができ、あっという間に時間が過ぎました。

Q. 本日のセミナーの内容はいかがでしたか？今後の活動に役に立ちそうですか？

最近の情報発信、利用の動向が理解できた。NPO 法人の事務担当をしているので、今後の役に立つ内容でした。

疑問に思っていたことの説明が多く、ためになった。広報誌を読んでもらうために、QRコードを活用したい。

自分で情報発信するにあたり、現在の傾向などを踏まえて、何が今後できるか考えたいと思います。

2月24日（土） 助成金活用セミナー

講師のお話「今こそ、リアルな助成金活用」

助成金の締切りが一番多い月は？

全国規模の助成プログラムについて、助成金の締切りが一番多い月はいつでしょうか？答えは、「5月」と「11月」です。基本的に助成金というのは、秋に募集があって、その後審査期間があり、3月に支援できるかどうかのお知らせが申請者に届く、というパターンです。5月がなぜ多いかということ、予算が決まってから始めて募集を開始する助成金が多いからです。4月から行う事業に関しては秋の助成金を活用して、無事採択されれば良いですが、不採択になった場合でも、次の年の秋まで待たなくても春の助成金に応募ができます。つまり年に2回チャンスがあるということです。

助成する側の視点

申請された事業にニーズがあるかを助成団体は見ています。地域の現状をしっかりと伝えることが大事です。全国的な助成団体は廿日市市の現状がわかりません。長年活動をしていると、活動者にとって現状は当たり前になってしまい、申請書に書かれていないことが多いのです。

また、助成期間終了後のことを考えていない方が多くいます。助成団体は、助成事業が終わったあとに何が残るか、成果が出せる事業内容かを審査しています。例えば100万円の助成金がもらえたとして。その100万円で、申請した事業を実施するということは多くの団体ができています。問題はその100万円を使い切った後です。その後も成果が出せる事業でなければなりません。

共感を得ることが大切

担当者からの共感を得ることも大切です。「なるほどそんな課題があるのか」「そんな解決手法があるのか」「だから皆さんが取り組むのですね」と“なるほど感”を得られるかどうか。そのためには、なぜこの課題に取り組むのか、複雑な課題をわかりやすく伝えることです。

例えば、皆さんが高齢者問題に取り組んでいて、100万円の助成金に応募するとします。よくあるのは、「日本の高齢者はこういう状況です。」というのを書いて「だからこの事業をやります。」といきなり事業内容を書いている。そうすると、社会問題に対してこの100万円で何ができるのか、というのが問われることになります。高齢者問題が日本にあり、団体としてはこういった課題感を持っている、それに対して、ここに集中して着手します。と、100万円で解決できるレベルまで分解することが必要です。そうすると納得性が高まります。

2/24 当日の様子とアンケート結果



当日は、市民活動団体やNPO法人の方など、約25名の方が参加。参加いただいた方、ありがとうございました！

Q. 本日のセミナーの内容はいかがでしたか？今後の活動に役に立ちそうですか？

気付かない点、見落としがちな点を教えてもらえた。助成金申請等に、ぜひチャレンジしてみたい。

助成金についてのノウハウを、十分に教えていただけた。自信を持って、助成金申請書を書くことができると思う。

助成する側の視点を考慮していなかったことを反省。現在の活動を、さまざまな視点から洗い直してみたい。

情報部主催 フォトコンテスト 入選作品発表

今回も数々の力作
応募ありがとうございました！
商品提供は株式会社やまだ屋です
毎年ご協力いただき感謝いたします

1位



「かきうちば」
矢吹 恭久 氏
地御前地区自治会

2位



「みやうち冒険あそび場の会」
寺本 光児 氏
青少年夢プラン実行委員会

3位



「廿日市地区市民運動会」
高山 剛男 氏
廿日市地区まちづくり協議会

4位



「異文化体験」
長谷川 葉子 氏
（公財）AFS 日本協会広島支部